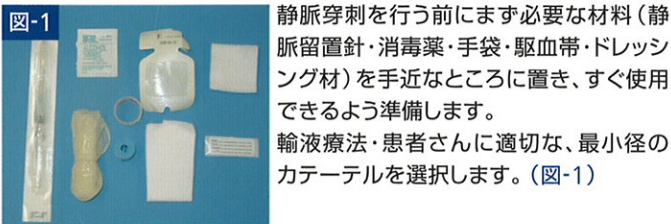


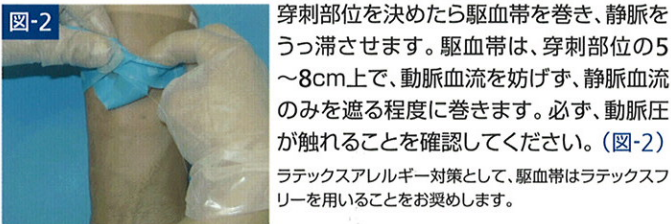
BD Insyte™ Autoguard™ 静脈留置カテーテル

BD インサイトオートガードによる静脈カテーテル留置方法

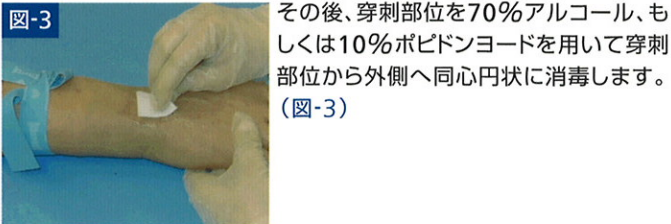
Step 1 準備



静脈穿刺を行う前にまず必要な材料（静脈留置針・消毒薬・手袋・駆血帯・ドレッシング材）を手近なところに置き、すぐ使用できるように準備します。
輸液療法・患者さんに適切な、最小径のカテーテルを選択します。（図-1）

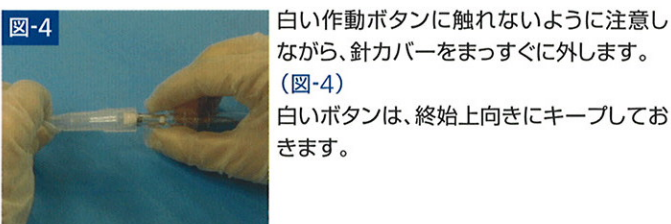


穿刺部位を決めたら駆血帯を巻き、静脈をうっ滞させます。駆血帯は、穿刺部位の5～8cm上で、動脈血流を妨げず、静脈血流のみを遮る程度に巻きます。必ず、動脈圧が触れることを確認してください。（図-2）
ラテックスアレルギー対策として、駆血帯はラテックスフリーを用いることをお奨めします。

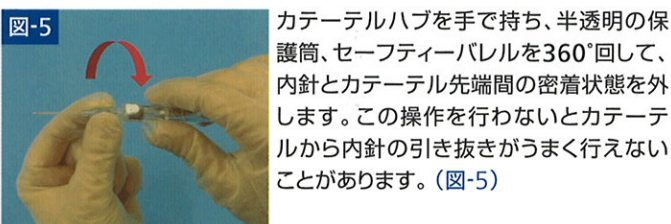


その後、穿刺部位を70%アルコール、もしくは10%ポビドンヨードを用いて穿刺部位から外側へ同心円状に消毒します。（図-3）

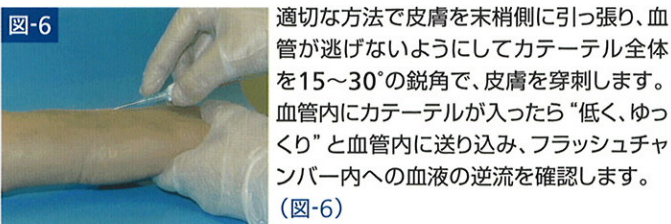
Step 2 静脈穿刺



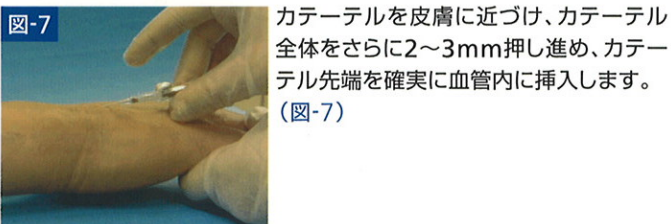
白い作動ボタンに触れないように注意しながら、針カバーをまっすぐに外します。（図-4）
白いボタンは、終始上向きにキープしておきます。



カテーテルハブを手で持ち、半透明の保護筒、セーフティーバレルを360°回して、内針とカテーテル先端間の密着状態を外します。この操作を行わないとカテーテルから内針の引き抜きがうまく行えないことがあります。（図-5）

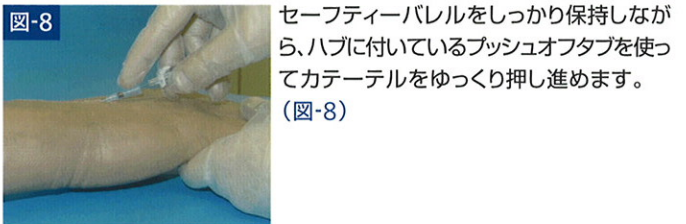


適切な方法で皮膚を末梢側に引っ張り、血管が逃げないようにしてカテーテル全体を15～30°の鋭角で、皮膚を穿刺します。血管内にカテーテルが入ったら“低く、ゆっくり”と血管内に送り込み、フラッシュチャンバー内への血液の逆流を確認します。（図-6）

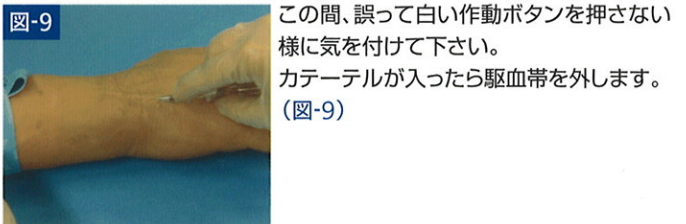


カテーテルを皮膚に近づけ、カテーテル全体をさらに2～3mm押し進め、カテーテル先端を確実に血管内に挿入します。（図-7）

Step 3 カテーテルの挿入

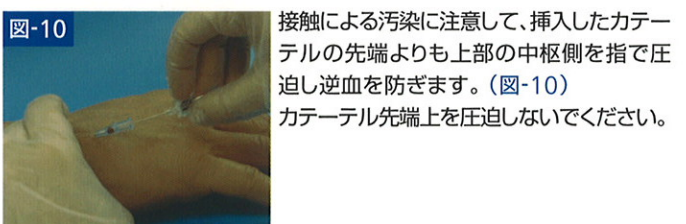


セーフティーバレルをしっかり保持しながら、ハブに付いているプッシュオフタブを使ってカテーテルをゆっくり押し進めます。（図-8）

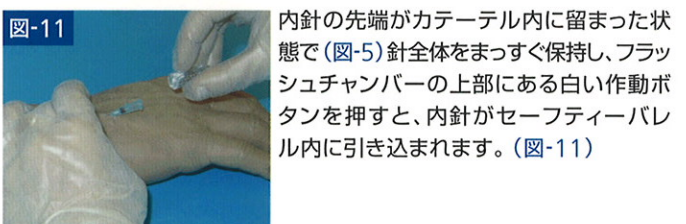


この間、誤って白い作動ボタンを押さない様に気を付けて下さい。
カテーテルが入ったら駆血帯を外します。（図-9）

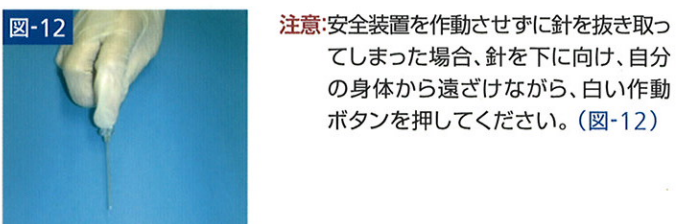
Step 4 内針の引き抜きから廃棄まで



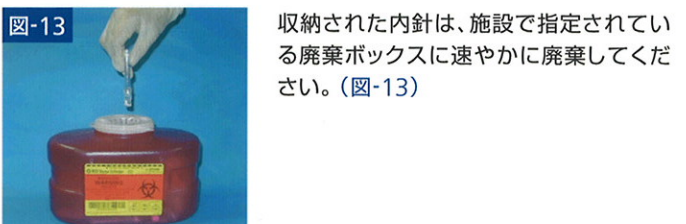
接触による汚染に注意して、挿入したカテーテルの先端よりも上部の中極側を指で圧迫し逆血を防ぎます。（図-10）
カテーテル先端上を圧迫しないでください。



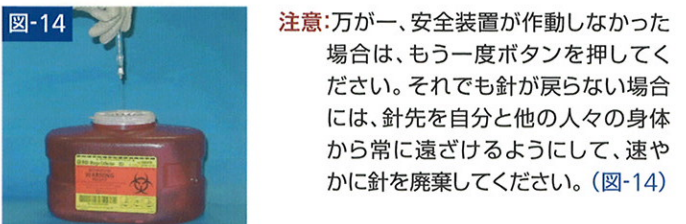
内針の先端がカテーテル内に留まった状態で（図-5）針全体をまっすぐ保持し、フラッシュチャンバーの上部にある白い作動ボタンを押すと、内針がセーフティーバレル内に引き込まれます。（図-11）



注意:安全装置を作動させずに針を抜き取ってしまった場合、針を下に向け、自分の身体から遠ざけながら、白い作動ボタンを押してください。（図-12）



収納された内針は、施設で指定されている廃棄ボックスに速やかに廃棄してください。（図-13）



注意:万が一、安全装置が作動しなかった場合は、もう一度ボタンを押してください。それでも針が戻らない場合には、針先を自分と他の人々の身体から常に遠ざけるようにして、速やかに針を廃棄してください。（図-14）

BD Insyte™ Autoguard™ 静脈留置カテーテル

BD インサイトオートガードによる静脈カテーテル留置方法

Step 5

輸液セットへの接続と固定

例:ルアースリップの固定



シェブロン法で固定し、透明ドレッシングを貼付

例:ルアーロックの固定



透明ドレッシング貼付後にロック部分をシェブロン法で固定

例:翼付きカテーテルとルアーロック



翼部分をU字固定し、透明ドレッシングを貼付

施設で定められた手順に従って、カテーテルを固定します。

静脈穿刺によく使われる皮静脈

ワンポイントアドバイス1

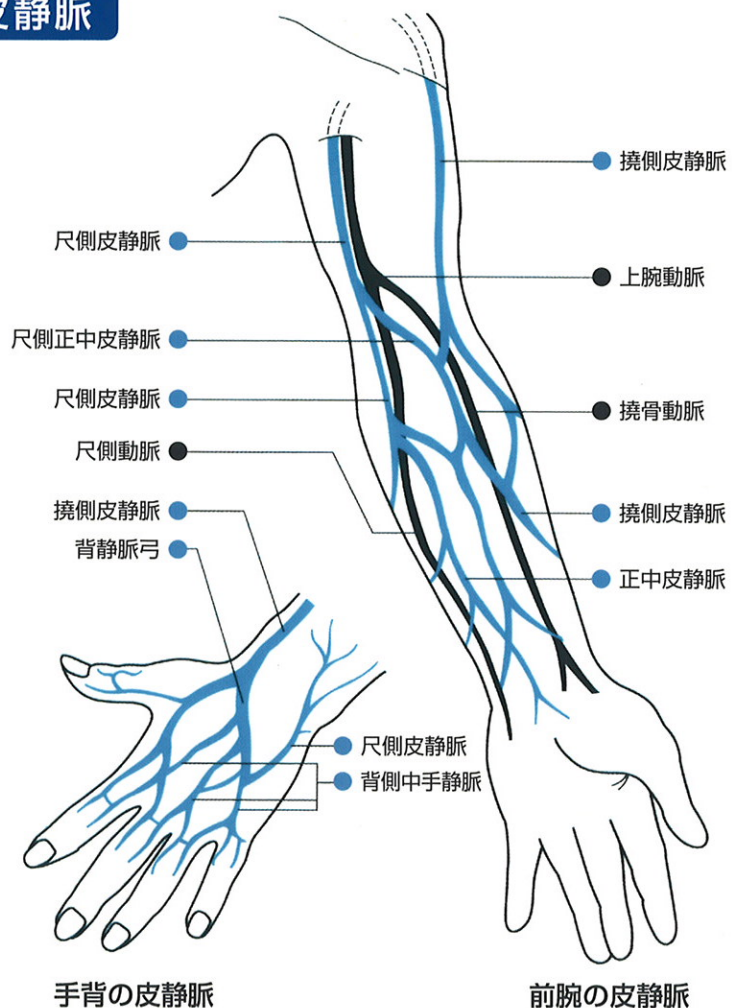
フード法

カテーテル先端が確実に血管内に入ったことを確認したら、カテーテルのみを少し進めます。次にハブと内針を掴み直してカテーテル全体を進めます。この方法によれば、内針がカテーテルを押し進める時の補強材として働き、静脈を再度穿刺することなく、安全にカテーテルが留置できます。

ワンポイントアドバイス2

静脈カテーテルが進みにくい原因

- 静脈弁にあたっている可能性
- カテーテル先端が、血管内に入りきっていない可能性



輸入販売元
日本ベクトン・ディッキンソン株式会社
 BD メディカル
 東京都港区赤坂8丁目5番26号 赤坂DSビル 〒107-0052
 ホームページ <http://www.bd.com/jp/>

●お問い合わせは下記へ
 お客様情報センター(BDダイヤル)
0120-8555-90
 FAX. 024-593-5761

04-020-02
 R0-0412-005-062